式　辞

本日ここに令和６年度、東北文教大学山形城北高等学校の入学式を挙行するに当たり、多くのご来賓の皆様をお迎えし、ここ「やまぎん県民ホール」を会場に、このように盛大に新入生の皆さんを祝福できますこと、私ども教職員にとりましても、この上ない喜びであります。

ただ今、入学を許可いたしました 421 名の皆さん、ご入学おめでとう。
皆さんは新型コロナウイルス感染症が広がる中で中学校生活を送り、特に１・２年生の頃は様々な制限を強いられることの連続であったと思います。それだけに、本日から始まる高校生活に大きな期待と希望を抱いていることでしょう。本校としましては、高校生年代というのは様々な体験が成長へとつながるということを念頭に、ポストコロナ時代にふさわしい新しい教育を進めていきたいと考えております。

さて、本校は大正 15 年、今から 98 年前、山形裁縫女学校の設立に始まります。大正末期から昭和初期にかけては世界的な大不況で、その波は山形にも押し寄せ、開校の喜びもつかの間、学校の経営状況が悪化し、当時の校長は昭和７年度をもって閉校を決定します。開校からわずか７年のことでした。しかしながら、主任教員であった富澤カネ氏は、在学する生徒への責任と生徒たちの学校存続を叫ぶ悲痛な声、教育に対する情熱などから新しい学校の設置を決意します。そして、昭和８年 10 月、県の認可が下り、山形女子職業学校と校名を変更、10 月 20 日に開校式を行いました。富澤カネ氏ご自身が初代校長に就きますが、時に 28 歳という若さでのことでした。

カネ氏は回顧録の中で、「どんなに時流が変わっても、人間として生きるため、これだけは変わるまい、と突き詰めて考え生まれたのが「敬愛信」である。人を敬い、人を愛し、人を信じる。またそれは、人に敬われ、愛され、信じられる人間になってほしいという願いが込められている。」と述べています。

皆さんが３年生になった時、本校は創立 100 周年を迎えます。本校がこれまで力を入れてきたことの一つとして国際理解教育の推進があります。昭和 61 年に韓国の正義女子高等学校と姉妹校締結を行い、交流を重ねて参りました。コロナのために中断していた移動を伴う交流については、今年２月に訪問団を迎える形で再開し、７月にはこちらから韓国を訪れる予定になっています。また、台湾への研修旅行も始まります。

これらは、これからの時代に最も大切だと言われる多様性の理解と尊重、それは多様な人々と関わることで育まれるという強い信念に基づくものです。本校では個性と多様性を尊重し、誰とでも対等の立場で協働できる人間の育成を目指しており、これがスクールミッションである「敬愛信」の本質です。

そして、この敬愛信の真ん中にあるのが「愛」です。

韓国のプロゴルファーでイ・ボミという選手がいます。日本では賞金女王にも輝き、日本人に最も愛されたプロゴルファーと言われる彼女ですが、昨年 10 月に日本ツアーを引退しました。その引退セレモニーでの言葉がとても印象に残ったので紹介します。

「全てには始まりと終わりがあります。最初はきっとラッキーで始まり、どのように終わるかは私の努力次第でした。かっこいい最後を迎えるため、自分自身を奮い立たせました。これまでの努力

が、皆さんのおかげで、いま実を結びました。私一人では到底できないことでした。プロゴルファー、イ・ボミは、私と皆さまが一緒に作り上げたものです。人間イ・ボミは、皆さまと作り上げたプロゴルファー、イ・ボミのことをこの先ずっと忘れません。皆さまが私に感じる感動は、私も同じように感じた感動です。これからも努力し続けます。」

流暢な日本語でこんな素敵な言葉を語ったイ・ボミ選手ですが、引退セレモニーの次の日、小雨振る中、再びゴルフ場を訪れ、サプライズでサイン会をしたそうです。彼女やメジャーリーガーの大谷選手などは、スポーツ選手として「能力の高い人」であると同時に「誰からも愛される人」でもあります。それでは、人から愛されるにはどうしたらよいのでしょうか。

そのヒントは、先ほど紹介したイ・ボミ選手の言葉に隠されています。「人間イ・ボミは、皆さまと作り上げたプロゴルファー、イ・ボミのことをこの先ずっと忘れません。」という言葉です。もう一人の自分がいて、少し高いところから自分を見ているのです。この能力の高い人は、総じて人から愛されます。これを専門用語では「メタ認知」と言います。メタとは「高い次元」という意味で、メタ認知を高めることができれば、たとえ周囲と対立が起きても、自分の感情を冷静に見つめて行動できるようになり、引いては愛される人間になるわけです。

勉強でもスポーツでも、先生に言われるままに行動しているだけでは、やがて成果が上がらなくなります。自分には何が足りないのか、弱点を克服するにはどうしたらよいのかなどと状況を分析し、やり方を工夫することが必要であり、人として向上する上でも高い次元から自分を見つめるメタ認知が重要になるわけです。もう一人の自分がいて、少し高いところから自分を見ているという感覚、ぜひこの感覚を大切にしながら、高校生活を送ってほしいと思います。

結びに、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。

只今述べたメタ認知による思考は、実は大人であっても難しいものです。子どもを客観的に見るどころか、子どもと同じ立場で考えてしまうこともしばしばあります。しかしながら、深刻な問題の場合、子どもと同じ思考で解決に向かうことはほとんどありません。私は、親と学校は常に子どもよりも高い次元にいながら、子どもの成長と幸せを願うというところでは同じベクトルを持つべきだと考えます。

そして、これからの３年間は人生の方向を決定する大切な時期でもあります。私たち教職員は、お子様が自ら進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くし支援して参ります。そのためにも、学校と家庭が相互に信頼しながら、子どもたちの背中を押し、倒れそうになった時には共に支える立場として協力し合いましょう。

本日、高校生活のスタートラインに立った新入生が、この学び舎で個性豊かな仲間と切磋琢磨しながら多様性を身につけ、そして愛し、愛される人間となることを期待し、式辞とします。

令和６年４月６日

東北文教大学山形城北高等学校
校長 大沼　敏美